

藤原宮跡第22次現地説明会資料

奈良国立文化財研究所 飛鳥藤原宮跡発掘調査部

調査期間 1978年3月6日～中旬

調査地区 藤原宮内裏内郭東南 発掘面積 150 m²

調査目的 納屋新築にかかわる事前調査

検出遺構 検出した主要な遺構は藤原宮造営以前の溝や柱穴と、藤原宮に伴う建物・堀・玉石溝などがあり、遺構の重複関係から3時期に分けられる。

オ1期 掘立柱建物SB2230は桁行4間以上、梁間5間の四面に廂をもつ建物である。柱間寸法は7尺等間で、桁行28尺(8.4m)以上、梁間35尺(10.5m)を測る。柱は抜き取り穴を掘って抜いているが、北側柱東よりオ3の柱穴には、抜き取り途中の状況で柱の一部が残存している。

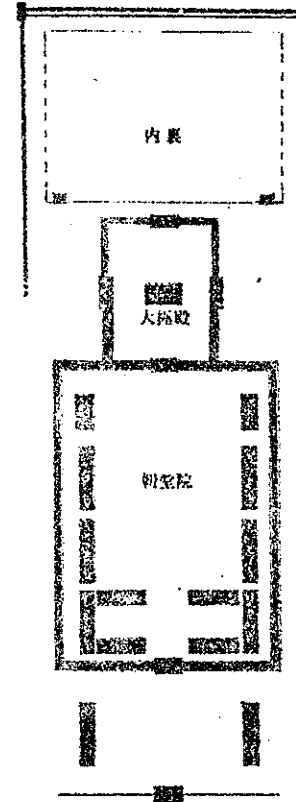
オ2期 SB2230を解体し、整地した後に堀SA2231をつくる。柱間は10尺(3m)等間である。

オ3期 SA2231を解体し、玉石溝SD2233を伴う堀SA2232にかえる。

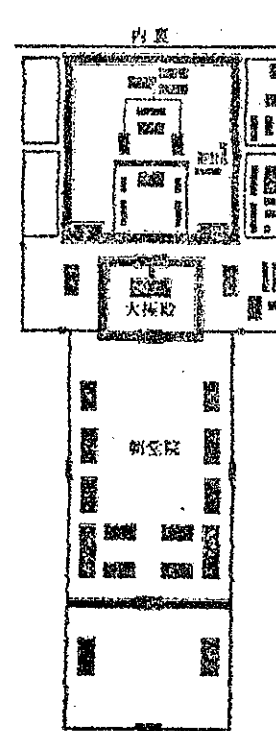
調査によって明らかになったこと

- 1) 藤原宮の内裏は3時期の造替があること。
- 2) SB2230の位置には、後期難波宮や平城宮第2次内裏でも大きな建物があった。
- 3) 藤原宮の内裏は外郭の内側に堀による内郭の区画がある。

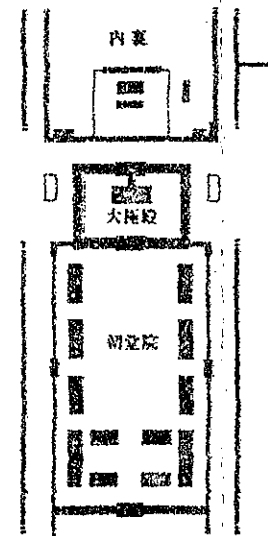
天武13年3月(684年) 天皇京師を巡行して宮室之地を定む (書紀)
 持統8年12月(694年) 藤原宮に遷居す 戊午 百官拝朝す (書紀)
 持統9年正月(695年) 公卿大夫を内裏に饗す (書紀)
 大和2年3月(702年) 大和殿を鎮め大掖す (文武)天皇新宮の正殿に御して斎戒す (続紀)



平城宮(第2次) (724?~784)



後期難波宮 (726~793?)



平安宮 (794~)

